最新事例：産業・流通ソリューション　Case 092

株式会社ケイ・オプティコム

体系的な情報共有と業務スピードの向上へ ポータルサイトで情報共有基盤を再構築

リアルタイムのデータ同期で高度な災害対策も実現

株式会社ケイ・オプティコム
総合経営本部
ITシステムグループ
システム計画チーム
チームマネージャー
東山 典弘氏

株式会社ケイ・オプティコム
総合経営本部
ITシステムグループ
システム計画チーム
ITインフラチーム（兼務）
マネージャー
中島 康之氏

株式会社ケイ・オプティコム
総合経営本部
ITシステムグループ
システム計画チーム
加藤 祐介氏

株式会社ケイ・オプティコム
総合経営本部
ITシステムグループ
システム計画チーム
浦野 哲男氏

光をもっと、あなたのそばに。
K-OPTI.COM

株式会社ケイ・オプティコム
本社：大阪市北区中之島3-3-23
設立：1988年
資本金：330億円
売上高：1222億円（2009年3月期）
従業員数：967名（2009年3月31日現在）

■要件
社員の情報共有基盤としてグループウエアを活用していたが、システム更新に際して、より高度に情報を整理・活用できる仕組みを求めた。情報の体系化および全文検索機能の強化などで、業務スピードをさらに向上させる。

■ソリューション
オフィスソフトと親和性の高いポータルサイト製品を採用。電子文書の運用管理について実績のある新日鉄ソリューションズに構築を依頼することで、完成度の高い基盤を作る。災害対策を組み込み、事業継続性も高める。

■成果
業務情報の集約や文書管理が容易になり、社内の業務が見渡しやすくなった。IT部門では会議のペーパーレス化に活用するといった成果が出ている。今後は利用範囲の拡大を通して、全社的な情報共有の高度化を目指す。

社内情報共有の高度化に向けて 情報共有基盤の全面刷新を検討

近畿2府4県を中心に、光ファイバーによる高速インターネット通信事業を営む関西電力グループのケイ・オプティコム。同社が「eo光」ブランドで展開する通信サービスは、高い品質と手厚い顧客サポートが好評で、2010年3月には契約数が100万件を超えた。

同社が社内で活用している情報共有基盤の再構築を検討したのは、2008年春ごろのことである。従来は、電子メール、グループウエアやファイルサーバーなどで業務に必要な情報を共有していたが、事業の拡大に伴って課題が出始めていた。

一つは、取り扱う情報量が増えた結果、文書ファイルの保管場所が分かりにくくなったことである。

社内システムの構築を担当する総合経営本部 ITシステムグループ システム計画チームでチームマネージャーを務める東山典弘氏は、「社内アンケートでは、必要な情報を探す作業に1日30分以上を費やす社員が25%もいるという結果が出ていました」と振り返る。

当時、社内で情報を共有する際は、メールのファイル添付に頼ることが多く、必要な情報が個人のPCの中で埋もれる傾向があった。重要な文書は、グループウエアやファイルサーバーに保管していたが、保管場所が分散しがちだったという。

もう一つの課題は、電子文書のライフサイクル管理を厳格化することである。同社では紙の文書で、作成から保管・破棄までに関する体系的な運用ルールを定めて、整理していた。しかし、文書の電子化が進むに従い、電子文書にも同じルールを適用していくことが不可欠になっていた。

総合経営本部 ITシステムグループ システム計画チーム ITインフラチーム（兼務）マネージャーの中島康之氏は「グループウエアやファイルサーバーに文書ファイルを保管すると、重要度や更新状況などが分かりにくくなるという課題がありました。それらを解決して電子文書のライフサイクル管理を自動的に行う仕組みを求めていました」と語る。

新しい情報共有基盤では、こうした課題の解決に向けて、機能や実績、将来性といったさまざまな点を検討し、Microsoft Office SharePoint Server（MOSS）を採用する。新基盤の開発パートナーには新日鉄ソリューションズを起用した。

東山氏は選定理由を、「同社はMOSSの構築はもちろん、電子文書管理のコンサルティングに関する実績があり、提案内容が非常に具体的でした。システム構築だけでなく、われわれの課題を総合的に解決できると感じました」と説明する。

製品をもとに不足機能を追加開発 災害対策で先進的な仕組みを構築

新しい情報共有基盤では、MOSSの標準機能を最大限に活用しつつ、補強したい検索機能を追加開発する。電子文書のライフサイクル管理に関しては、MOSSのサブシステムとして構築し、長期保管用フォルダへの文書移動などを自動的に行う。

災害対策でも先進的な技術を採用する。MOSSのDBサーバーを2カ所のデータセンターに分散配置し、データをほぼリアルタイム同期。片方が災害に見舞われても、最新の情報を使って業務を継続できるようにした。さらに、DBの更新ログを本社に転送し、本社が孤立したときも最低限の運用を可能にする。

新情報共有基盤の構築作業は2009年8月に始まり、順調に進んだ。2009年12月に全社向けポータルが、2010年4月にグループ（業務部門）向けポータルがそれぞれ稼働している。現在は、チームやワーキンググループといった小規模組織向けのポータルサイトや、文書管理機能の開発を進めているところだ。

新日鉄ソリューションズの仕事ぶりについて、総合経営本部 ITシステムグループ システム計画チームの浦野哲男氏は「開発する機能を実際の画面をもとに説明してもらえ、具体的なイメージを持つことができました。また、必要な情報を質問すると答えや代案がすぐ来ます。MOSSを深い部分まで良く知っていると感じました」と振り返る。

■コアテクノロジー
企業情報共有の企画・コンサル、Microsoft Office SharePoint Server 2007、SQL Server DBミラーリング/ログ配布、VSTO（Visual Studio Tools for Office）

■システム概要
●サーバー：MOSSファーム×6（WFE×2、SQL×2、Index×1、Witness×1）、災害時用MOSS×1
●ソフトウエア：Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft SQL Server 2008、DocAve V5

IT部門では会議がペーパーレスに 今後は全社で情報共有を高度化

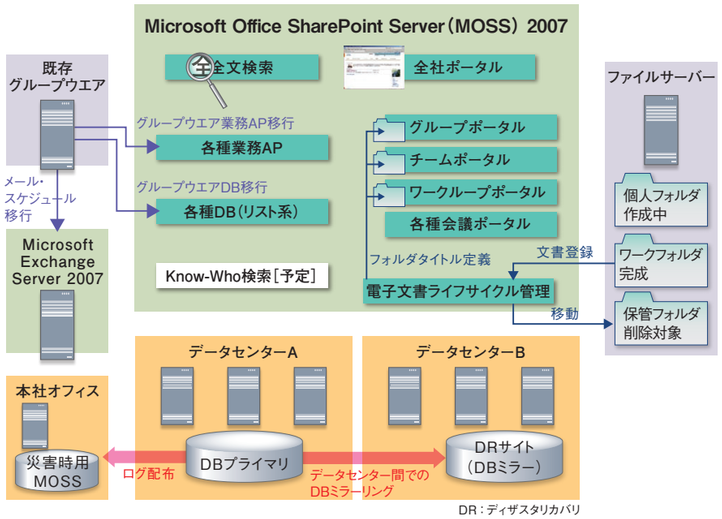
ケイ・オプティコムは、新日鉄ソリューションズのプロジェクト管理力についても高く評価している。

総合経営本部 ITシステムグループ システム計画チームの加藤祐介氏は「システム構築後の運用も見据えて、関係各部署・ベンダーと意見を調整し、綿密なスケジュールを作成するなど、プロジェクト管理に関しては、全面的に信頼することができました」と語る。

完成した新情報共有基盤の成果は少しずつ表れている。全社ポータルでは情報をまとめて表示するため、業務の動きが見渡しやすくなった。さらにIT部門では、会議に関する文書の配布、メンバーの招致、議事録の保存に活用することで、会議のペーパーレス化も実現している。

東山氏は「この情報共有基盤は使い方に応じて、より高い効果を得ることができます。従業員一人ひとりが会社の状況などに関する共通認識を持ちながら業務に取り組んでいけるよう、活用の高度化を目指していきます」と語る。

■ケイ・オプティコムが導入した情報共有基盤の概要



DR：ディザスタリカバリ